

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2017年5月13日(土)～14日(日)

@サンポートホール高松、高松シンボルタワー、JRホテルクレメント高松

プレコングレスワークショップ 12	
企画名	心電図ハンター・ハンター part 2 (右脳系失神心電図ハンター・左脳系失神心電図ハンター)
日時	2017年5月12日(金) 15:00～16:30
会場	第4会場 (サンポートホール高松 ホール棟 6F 61会議室)
企画責任者	増井 伸高 (札幌東徳洲会病院)
定員	72名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>2年連続で満員御礼の心電図セミナー・姉妹編の登場！</p> <p>プライマリ・ケア医をターゲットにした虚血型心電図講義：心電図ハンター・ハンターは多くの方に参加いただき、明日から使える講義としてニーズがある。一方で同様に求められる失神の心電図診断のニーズに答える講義はまだ数少ない。</p> <p>そもそも失神や動悸の診療で心電図診断は必須である。だってガイドラインにも「絶対取りなさい！」と明記している。にもかかわらずだ、そのガイドラインには心電図波形は全く出てこない。例えば QT延長や3束ブロックまで漏れなく見つけだせるプライマリ・ケア医がどれだけいるのだろうか？循環器医が作るガイドラインで『循環器医なら読めて当たり前』の心電図はブルガダ、イプシロンなど“単語”でのみさらりと記載される。しかし非循環器医は現場で『読めて当たり前』の心電図波形を単語に変換できない…。すると素晴らしいガイドラインなのに活用しきれていないではないか。</p> <p>そこで、不整脈診療をしないプライマリ・ケア医が求められる失神心電図判断について講義する。年間数千枚の心電図に暴露され、研修医と循環器医師とそして患者さんと苦楽を共にする ER 型総合診療医がそのノウハウを完全伝授。</p> <p>参加型セミナーで実際の心電図を千本ノックの如く読影しながら、失神心電図判断を受講中に完全に身につける。参加者は講義終了後に以下の二つのハンティング能力を手に入れる。</p>	
<p>【概要】</p> <p>ハンター能力1 右脳系失神心電図ハンター</p> <p>気をつけないと心原性失神に見えなく、あとから循環器医に「この心電図でなぜコンサルトしないのだ！」と言われるような“隠れ”心原性失神心電図を右脳を使ってハンティング出来る。</p> <p>ハンター能力2 左脳系失神心電図ハンター</p> <p>理論的に考えアクションを決める左脳系失神心電図を解説する。循環器内科が「これは急がないんだけど&hellip;」と思う心電図を認識しハンティングできる。</p>	